

## 平成29年度第2回伏見区基本計画推進区民会議

日時：平成29年11月30日

会場：伏見区役所4階中会議室

### 1 開会

伏見区長挨拶

暦の七十二候では、朔風払葉とある。朔風は木枯らしを表しており、冷たい北風が木の葉を払い落とす頃となり、日に日に寒さを感じるようになってきた。

本日はお寒い中またお忙しい中、平成29年度第2回伏見区基本計画推進区民会議に御出席いただき感謝申し上げます。

大阪府・市の特別顧問を務められ、京都市の観光政策にもご尽力いただいている橋爪紳也座長並びに社会福祉協議会会長及び市政協力委員連絡協議会学区会長を務められている村井信夫副座長をはじめ、各界各層の委員の皆様にお越しいただき、また日頃から伏見区政の推進に格別の御理解・御協力をいただいていることに、心からお礼申し上げます。

さて、今年も残すところ後1カ月程になってきた。

振り返れば、京都の悲願であった文化庁の全面移転を契機に、京都を挙げて暮らしの文化を基軸にあらゆる施策を融合させ、この1年間取組を進めてきた。

また、今年は大政奉還150年の年にあたり、京都市としても二条城を舞台に様々な記念事業を展開してきた。

ここ伏見においても年が明ければ、鳥羽・伏見の戦いから150年であり、伏見区役所でも当時の文化の情報発信に努めている。

そして来年は、いよいよ明治150年である。

当時の京都市の状況は、都が東京に移ったことで都の機能を失い、人口も3分の2に減少する危機的な状況であった。こうした困難に、先人達は、まちづくりは人づくりからの思いで、番組小学校の設立や蹴上の水力発電、琵琶湖疏水の建設、鉄道事業の開始などといった先進的で果敢な挑戦を行い、今日の発展の礎を築いた。

伏見においても、鳥羽・伏見の戦いの戦禍の中から、近代化がスタートした。

改めて、先人達の軌跡や誇りを区民の皆様と共有して、新しい伏見のまちづくりに果敢に挑戦していきたい。

さて、伏見区基本計画の策定から7年が経過し、計画期間が10年間であることから残り3年となり、総仕上げの段階になってきた。

区役所としても、深草担当区長、醍醐担当区長とともに区役所、支所職員一丸となって、伏見のまちづくり、伏見区基本計画で掲げた伏見の将来像の実現に向けて、安心安全で魅力あるまちづくりに全力を尽くしていく。

前回の会議で議論に挙げた点等も踏まえて、平成29年度の取組状況を報告させていただく。

結びに、本日の会議が実り多きものとなるようお願いし、挨拶とさせていただきます。

(橋爪座長挨拶)

今年の秋も10月は台風が毎週来ており心配していたが、河川改修も進んでいることから安心することができた。一部避難された方もおられたとお聞きしたが、無事で何よりである。

個人的な仕事の話になるが、現在、自治体で策定を進めているところもあるが、土地の適正化の計画、いわゆるコンパクトシティの仕事を受けている。駅周辺などにもう一度、都市機能を集約しなおし、人口減少に対応すること、また、防災上、問題がある場所に住んでいる方に安全な場所へ住戸を移してもらう施策のことであり、日本各地でこれから進められていく。

平成28年12月に、無電柱化を推進させる法律ができた。京都市では、早くから電柱を撤去し、電線を地下に埋設する等、無電柱化への取組を進めており、成功してきた。法律が制定され、今後、日本中で無電柱化を進めていくことが示された。

世界遺産や歴史的な景観が多い京都市では、景観を守る意味でも重要になる。

また防災の観点からも地震、災害等で避難する際にも電柱があることで障害になることもある。木造住宅が密集している地域で地震が発生した際、電柱が倒れ消防車等が通れなかった等の問題もあり、各地で改善に向けた議論が始まっている。

伏見でも無電柱化に向けた話が出てくると思うが、今後、開発予定の場所や

商店街のアーケード改修のタイミングで検討いただければと思う。

## 2 議題

### (1) 平成29年度伏見区運営方針の進捗状況

ア 三所共同事業の進捗について（事務局から説明：資料1，2）

（加藤委員）

伏見区区民活動支援事業について、今年度も各委員の皆様非常に熱心にご議論いただき公正公平な審議ができたと思う。改めて感謝を申し上げる。

今年度から新設された重点支援事業であるが、子どもの貧困対策等・健康長寿・地域防災の3分野について各4件を採択することができた。

一般枠においては、地域のつながりを様々な形で強めていく事業や京都ならではの歴史・文化に関わる事業を採択した。小規模枠においても非常に創意に満ちた事業を採択できた。

地域においては、事業化できていないが大事な取組がたくさんある。こういったまちづくりの卵を孵すといったような支援できる取組が重要であると考えている。

政府が「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部を立ち上げた。来年度から本格的に動き始めることから分野横断的な取組等についても検討できればと思う。

自治会が弱まっている状況がある。自治会を支援していくことは、地域づくりの重要なベースになる。今後、様々な取組に関して自治会とコラボレーションするといったことや、自治会からの推薦をいただくといったような工夫も必要になってくる。

（岩井委員）

支援する事業が、前向きに進歩・発展していくような形が求められる。支援がなければ事業を継続できないようでは、支援では無くなっていく。

支援が必要な団体はまだあるので、そういった団体にも行政が光を当て支援を進めていくことが重要であり、本支援事業制度の活性化にも繋がる。

(高橋委員)

支援事業の審査委員をしていることもあり、採択団体である「誰でもがコンシェルジュに！スマホおもてなし講座」の活動に参加してきた。

スマートフォンにアプリをインストールするところから始まり、外国の方が1名おられ、アプリを使用して実際に会話をした。おもてなしの心を表現する良い取組の一環として今後、普及していけばと感じた。

イ 伏見区役所の取組の進捗状況について（事務局から説明：資料3）

(橋爪座長)

向島ニュータウンの取組の進捗であるが、前回の議論になったこともあり、取組の進捗状況を報告いただいた。向島の計画は2020年までの期間であり、次期計画を今後策定していく予定なのか。

(事務局)

社会情勢の変化等もあるが、小中一貫校創設後の跡地活用の話もあるので今後、状況を見据えながら計画等を策定していくことになると考えている。

(橋爪座長)

次期伏見区基本計画の策定とも重なってくる時期でもある。

(加藤委員)

住民主体の取組が意識的に進められており、その中にすばる高校、文教大学等の学生も参加するといったおもしろい状況が生まれてきている。

市営住宅の空き家の活用状況であるが、確かな数ではないかもしれないが、数百戸の空き家があると聞いている。また、学生の貧困化も話題に挙がっている。例えばであるが、学生に対し、市営住宅を安く貸し出し、その対価として地域でのフィールドワークやサービスを行うといった地域への還元を行うことで、学生の力にもなるし、地域にとっても力になる。学生のまち京都でもあるので、思い切った工夫が見られる取組を進めていければと思う。

(事務局)

市営住宅の空き家の状況であるが、現在717戸あり、都市計画局においてその活用方法を検討している。

市営住宅は、生活困窮者のための住戸の提供を目的としている面もあり、学生への貸し出し等については、目的外使用になるため、理由付けを必要としており、まず災害時の避難所としての活用を検討している。

今後、幅広い活用方法を検討していく。

(橋爪座長)

住宅のマスタープランも次の段階に入る中で、空家の災害時における避難所としての活用は、全国的な動きであり、今後、さらに検討できれば良い。

(田中委員)

観光客が、伏見稲荷に集中している課題に関連して、伏見では宿泊施設の不足が挙げられる

一方で、京都駅周辺や御所周辺といった様々な場所でビジネスホテルがたくさんできている状況であり、そういった中で民泊の課題がある。

観光客が快適に滞在することと地域との共生は重要な視点であり、空家の活用にも関係してくると思うがいかがか。

(事務局)

中京区、東山区において民泊が多くあり、伏見区内については、昨年度、違法民泊等もあり86件を指導した。特に深草地域の伏見稲荷周辺が多い状況である。

また、空家については、伏見区内でも京町屋の空き家が増えてきている状況等があり、丹波橋駅周辺において地域の協力を得ながら板橋学区、桃山学区、住吉学区等で空家の活用ができないかを検討している。

(橋爪座長)

観光客と住民が同じ場所で過ごすことで問題も色々出てくると思うが、まちの魅力を高めていくためには、お互いが協力して解決していかなければならない。

先月、バルセロナに行ったが、あるエリアは観光客のための宿泊施設が地域内に増えすぎたため、地価が上がり、長年住んでいた住民が家賃を払えず住めなくなっている。

このため、バルセロナの都心部ではこれ以上宿泊施設を増やさない方針を打ち出し、これまで宿泊施設があまりなかった地域で優遇策を行っていく取組を今年から進めている。

日本でも様々な場所で宿泊施設が増えているが、今後、観光客向けのエリアに限定して宿泊施設を建てるのか、自由に建てるのか難しい課題である。

イ 深草支所の取組の進捗状況について（事務局から説明：資料4）

（橋爪座長）

大岩街道 B エリアのまちづくり協議会については、具体的なスケジュールはあるのか。

（事務局）

今年度、協議会を6月に立ち上げたところで、住民意識の醸成を図りつつ、将来的には、地区計画を策定していく予定である。

B エリアに限らず、一体的な場所であるので全体として進めていきたい。

C エリアについては、岡田山の撤去に向けて事業が着実に進んでいる状況である。

（橋爪座長）

岡田山の撤去はいつ終わるのか。

（事務局）

平成26年に事業を開始し、計画では20年以内としているが、地域の方からもなるべく早くとの意見も出ている。計画の1期目であるが、その辺りも含めて2期目の検討を進めていく。

(田中委員)

岡田山は負の遺産であるが、環境保全のため、行政と住民が一体となって取組を進めており、非常に意義があると考えている。しかし、その取組があまり知られていないので、さらなる住民への周知が必要と感じている。

深草地域が再生できれば、嵐山等にも匹敵する名所になるのではないか。

ドイツの研究者達が、産業廃棄物の改善のための先進事例として岡田山に視察にきた記事が、京都新聞に掲載されていた。

(橋爪座長)

経過を記録し、変化を伝えることは、後々のために大事である。

(事務局)

周辺地域で、一斉清掃ウォークを年2回実施しており、秋の開催時には、京都工学院高校と共に大岩山の中を通るコースを清掃した。

地域の方から、こういった場所があることを知らなかったとの声をいただくこともあり、学生等の若い世代にも知っていただくための取組を進めている。

引き続き、協働を促進していく。

(座長)

周辺地域の水質調査を以前されていたと思うが、状況はいかがか。

(事務局)

七瀬川の上流になっていることや、京都工学院高校の先生も含めて市環境政策局環境指導課等による定期的な調査を行っている。また、Cエリアの事業者も独自に調査を行っているが、問題はない。

(山本委員)

大岩地域に住んでいるが、清掃活動等に取り組んでいることは、ほとんど聞いたことがない。隣接する町内に情報がきていないので、活動に参加することができていないのは残念である。

深草学区東部地域環境対策推進協議会に情報は入っているのか。入っているのであれば、そこからの情報発信がないのか。

(事務局)

深草学区東部地域環境対策推進協議会も岡田山撤去連絡協議会のメンバーに入っているため、詳細は把握している。

清掃活動の結果や視察等についての進捗情報をチラシ形式の通信で作成しており、その配布を深草学区東部地域環境対策推進協議会にお願いしている。深草地域全体への周知は行っていない。

(山本委員)

深草地域全体への周知は必要ないと考えているが、特に奈良線東部の住民に対して、自分事として活動に参加するために、積極的な周知を図ってほしい。

町内会長が活動に参加していることは知っているが、一般の住民は知らない現状がある。

(事務局)

多くの方に活動の内容を知っていただきたいという思いは同じなので、活動の周知を含めて積極的に取り組んでいく。

イ 醍醐支所の取組の進捗状況について (事務局から説明：資料5)

(座長)

「おとなだいご塾」が三箇年で事業を終了し、「だいご地域活動若者応援隊」が継承するという位置づけの理解で良いか。

(事務局)

「おとなだいご塾」に参加していただいた地域の方や学生を中心に「だいご地域活動若者応援隊」を組織している状態である。

(2) その他

- ・保健福祉センターの現状について (事務局から説明：資料6)
- ・伏見区関連の情報発信の充実について (事務局から説明：資料7)



(各団体からの報告)

醍醐いきいき市民活動センター，伏見いきいき市民活動センター，京エコー  
ジーセンター

(その他意見等)

(田中委員)

この会議は、伏見区基本計画の進捗を共有する場であるが、今後、策定される第3期の伏見区基本計画に向けて中小企業からも意見を出せるようにPRしたい。

自営業も含めて、自社が社会へどのように貢献しているのか、目的意識を明確にして、地域とのつながりも考えて、計画づくりを実施している。

中小企業との関わりも深いので、基本計画の策定時には参加したい。

(橋爪座長)

基本計画の策定はこれからか。

(事務局)

基本計画の進捗状況については、次年度の区民会議において、皆様からいただいた意見も踏まえて、個別の項目等も含めて報告したい。

(橋爪座長)

現行の基本計画の進捗状況を踏まえて、次期の基本計画につなげていただきたい。

### 3 閉会

村井副座長挨拶

伏見区は、西日本で2番目の人口規模を誇る行政区であり、さらに伏見、深草、醍醐と3つの行政区に別れており、1つにまとめていく難しさもあるが、子どもからお年寄りまで伏見に住んでいて良かったと思えるよう、今後も皆様の意見を聞きながら、橋爪座長をはじめ、協力してまちづくりを進めていきたい。